

節電に関するエネルギーポリシー

株式会社アーク

東京電力の福島第1原子力発電所の複数原子炉メルトダウンに基因して、これから数年におよぶ節電が必要となっています。

特に夏期においては、室温を28度に上げるように喧伝されていますが、28度では研修の効率を大きく下げることとなります。「顧客目線」の弊社としては、これは受け入れることはできません。弊社は、これまでと同様に研修室の室温は、研修に必要な室温26度を確保します。

必要なことは、室温を上げるのではなく、使用電力の低減です。

そこで、弊社は、最も消費電力の大きい空調(冷房・暖房)設備と、石原東京都知事が気にしておられる自動販売機について、最新の節電型機器に取り替え工事(リプレース)を致しました。これにより、弊社は、-15%節電を大幅に上回る節電を実現しました。

さらに事態が深刻化し警報の発令時、すなわち、電力の供給余力が3%を切り、大規模な停電を引き起こす恐れが高まる事態に至った場合には、さらなる対応を行います。しかしながら、研修室室温は、26度を確保します。

弊社のポリシーについて、ご理解をいただければ幸甚に存じます。

弊社対応策の詳細は、以下のとおりです。

対象設備	詳細対応策			備考
	通常時間帯	ピーク時間帯	警報発令時	
空調設備 (-45%)	(1)空調設備を節電型にリプレースした (2)南面ガラス窓に、反射材、断熱材を貼付した		(1)事務室は、28度とする	(1)研修室の室温は26度とする
自動販売機 (-90%)	(1)節電型にリプレースした	(1)保冷運転モードとする(設定済み)	(1)運転を停止する	(1)深夜・早朝は、電源断とし、タイマーにより通電開始する
照明 (-75%)	(1)事務室は-50%に減光する	(1)事務室は-75%に減光する。	(1)事務室は蛍光灯照明を-100%とし、LED光源ランプを使用する	(1)研修室は減光しない
事務機器 (-90%)	(1)通常使用とする。 (2)大量コピーの必要があるときは、この時間帯に行う	(1)コピー機の使用は、研修に最低限必要なものに限定する (2)大量コピーは行わない		(1)パソコン、電話、FAXなどの、使用制限はしない

()内は、ピーク時間帯のエネルギーパフォーマンス指標としての削減率

以上